

岩波駅周辺地区 まちづくりニュース



裾野市 建設部 ウーブン・シティ周辺整備担当

【電話】055-994-9010

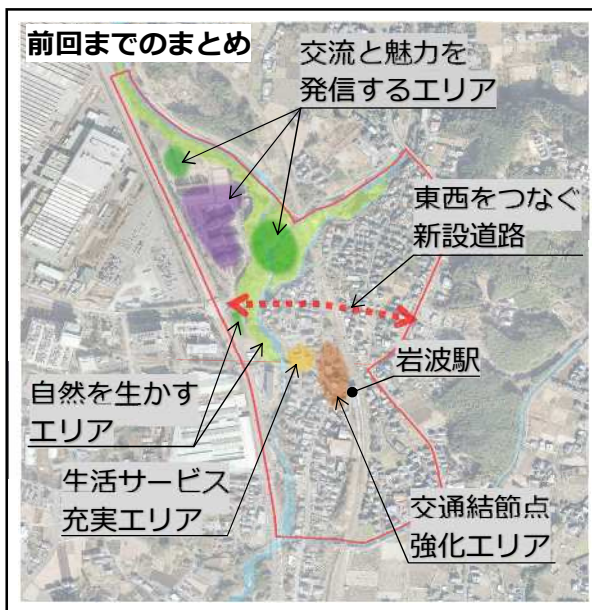
【WEB】<http://www.city.susono.shizuoka.jp/soshiki/6/5/>

●第5回ワークショップ（11月7日開催）の結果概要

11月7日（日）に5回目となるワークショップを開催しました。今回は、前回までのまとめに加え、「どうなったら岩波のまちがにぎわっているのか」をみなさんで考えました。また、日本大学理工学部交通システム工学科の学生にも地域外の若者の目線で議論に加わっていただきました。

①裾野市役所に確認したいこと

前回までのワークショップのまとめについて説明を聞いた上で、各グループから市役所に確認したいことを発表いただきました。



前回までのまとめ（概要）

○交流と魅力を発信するエリア

道の駅や交流施設、ウーブン・シティとの繋がりなどの意見が多くありました。

○自然を生かすエリア

黄瀬川の自然や景観やそれらを活用した遊歩道に関する意見が多くありました。

○生活サービス充実エリア

安全な歩道、賑わいや生活利便性を向上させる施設の意見が多くありました。

○交通結節点強化エリア・岩波駅

駅前ロータリー、駐車場駐輪場の整備のほか東口改札の整備や駅の移設といった意見もありました。

聞きたいことと回答（抜粋）

Q1：それぞれのエリアは、誰を想定して何を作るの？

A1：地域の方々やウーブン・シティの住民、企業、観光者などさまざまな人を想定しています。また、岩波の魅力の発信についての検討を進め、今後、基本計画で示していきたいと考えています。

Q2：交流や交通結節点機能とは？（具体的に）

A2：地域住民とウーブン・シティの住民をはじめとした新たな住民、地域外から訪れる人、通勤者など、多様な交流が生まれる場を目指します。交通結節点とは、公共交通（電車・バス）など複数の交通手段を結ぶ地点のことです。乗り換えやすさや利便性を高めていきます。



Q3：整備の優先順位やスケジュール、整備費はどうなるの？

A3：今後、基本計画で示していきます。まちの様子が大きく変わり始めるウーブン・シティの開所前後を短期目標として整備を進めることを考えています。

Q4：行政と市民・企業それぞれの役割はどうなるの？

A4：行政は、基盤整備や市民、民間企業の方々が活躍できる仕組みをつくる役割を担います。市民・企業の方々が主役となって岩波のにぎわいや活気をつくっていききたいと考えています。



② 『にぎわい』 についての意見交換

岩波駅周辺での「にぎわい」について書き出し、整理しました。

◆交流と魅力を発信するエリア

- ・遊んだり、散歩・ランニング、キャンプができる公園には人がたくさん集まる。
- ・外国人との交流（マーケット、異文化交流）や地場野菜のレストラン、産直、マルシェがあれば人が集まる。
- ・広場は、コンサートやイベント、フェス、野外コンサートなどでにぎわう。



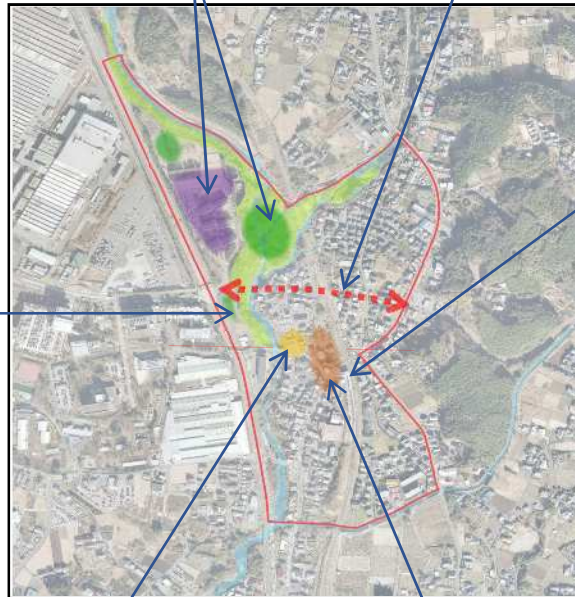
◆東西をつなぐ新設道路

- ・岩波駅から箱根・芦ノ湖までのハイキングコースなどの起点としてにぎわう。
- ・季節ごとに花の咲く歩道は地域の人でにぎわう。



◆自然を生かすエリア

- ・バーベキューや親子でピクニックができる。
- ・親水公園は休日に人でにぎわっている。
- ・黄瀬川の自然を感じられる飲食店やキッチンカーがあれば人が集まる。
- ・ライトアップした黄瀬川や蛍祭りで季節ごとににぎわいが生まれる。



◆岩波駅

- ・駅のロータリーで夏の盆踊りなどが開催されればにぎわいを感じる。
- ・企業に呼びかけて駅ビルの整備が進めばにぎわいが出る。



◆生活サービス充実エリア

- ・飲食店やキッチンカーに学校帰りや会社帰りの人が立ち寄り、食べ物をつまみながら話し込む姿が見られればにぎわいを感じる。
- ・カフェや図書館などの施設に人が集えば、にぎわいにつながる。
- ・小型モビリティのポートなどがあれば移動の起点となりにぎわいが出る。



◆交通結節点強化エリア

- ・パノラマロードやオリンピックコースにサイクリングに出掛ける出発点となれば、ロードレーサーなどでにぎわう。
- ・駅周辺の低層ビルに洒落た小さな店舗が集まり、事業者が『小さなお店』でチャレンジできるまちであれば、にぎわいを感じる。



※写真は、イメージです。

第6回ワークショップの開催予定

- ▶ **テーマ（予定）**：各エリアの使い方、次年度の予定
- ▶ **開催日時**：2021年12月12日（日）
- ▶ **場所**：裾野市役所（4階 401 会議室）

